

赤潮情報（5）

令和5年7月26日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター
豊前海研究所長

7月25～26日に各地の漁港および地先海域で調査を行った結果、有害プランクトンの一種シャットネラ属が最大300細胞（7月25日宇島港）確認されました。特に漁港域で増殖傾向となっており、注意が必要です。

<有害プランクトンの状況>

○シャットネラ属（*Chattonella* spp.）は、豊前海では通常6～8月頃に発生し、海水1ccあたりおよそ100細胞程度に増えると魚がへい死する恐れがあるプランクトンです。

○本種は海水1ccあたり500細胞以上になると、海水の変色が目視できませんが、変色が確認される前の低密度の状態でも漁業被害が生じる恐れがあります。

また表層の変色がなくても中層～底層に移動して増殖している場合がありますので、海水の変色が見られない場合でも注意が必要です。

○へい死の恐れがありますので、漁獲物の港内での蓄養は避け、早めの出荷を心がけてください。また変色域付近ではスカッパを閉めて航行するなど、活け間の魚の状態にも注意してください。

<今後の対応>

○今後の天候や海況によっては、増殖することも考えられます。

○研究所では引き続き調査を実施しますので、今後の情報にご注意下さい。

※漁業被害、海面の着色などがみられましたら、

豊前海研究所(0979-82-2151、担当:恵崎、後川)までご連絡下さい。

漁場調査結果

図1 シャットネラ属の漁港域細胞数（表層のみ）

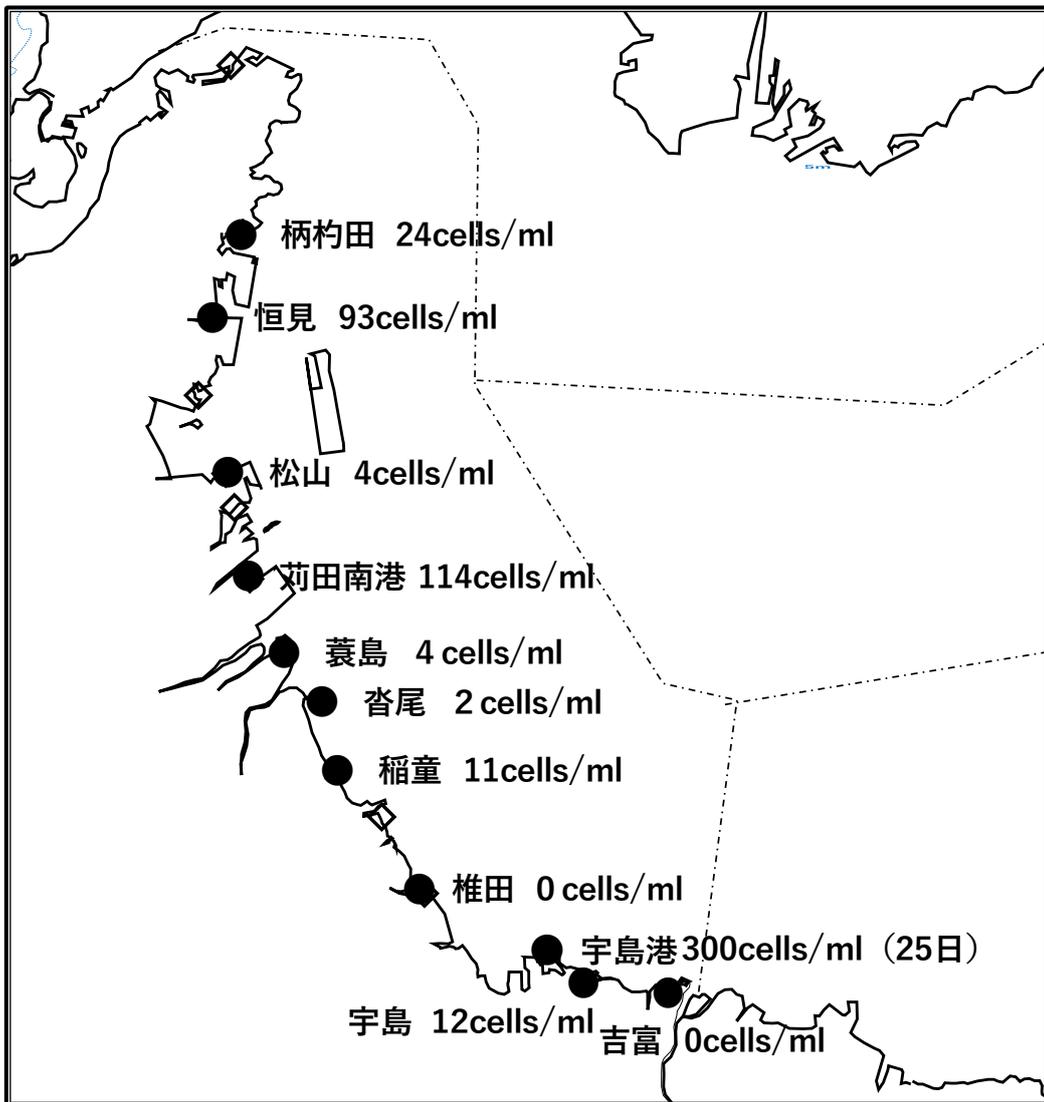


図2 シャットネラ属の沿岸域細胞数（表層のみ）

